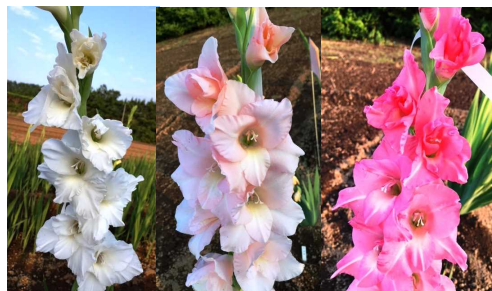


## 生物工学研究所第1回主要課題現地検討会（グラジオラス）の開催

平成27年7月10日（金）に農業総合センター生物工学研究所において現地検討会を開催しました。当日は、主産地から生産者、茨城県グラジオラス球根協会、JA 担当者等の29名に参加していただき、現在選抜中の系統を育苗圃場で評価していただきました。また、今後の品種育成の方向性や、産地の生産状況等についての情報を共有することができ、関係者が一体となったオリジナル品種の育成につながる有意義な検討会となりました。

### 1 選抜中系統の評価について

- 品種育成の早い段階から現場の声を取り入れるために、選抜中の系統を紹介し評価していただきました。
- その結果、右図の「10-40A」、「10-80A」、「11-11B」は特に有望であると評価されました。これらの系統については、栽培特性や球根増殖等の特性をさらに調査し、品種化を目指していきます。



10-40A

10-80A

11-11B

### 2 品種育成に関する意見交換について

- 今後の育種の方向性として、①夏期出荷用の栽培において、穂やけなどの高温障害が発生しにくい品種、②業務需要に適する純白色および淡いピンク色の大輪系品種、③カラーバリエーションの強化および香りがあるなど特長のある品種の育成について、たくさんの意見をいただきました。

### 3 グラジオラスに関する情報交換について

- JA 土浦からは、切り花の生産状況について、若い生産者が多く作付けが増加していること、県オリジナル品種「常陸はなよめ」は現在の2倍程度の生産が可能であることが報告されました。
- 茨城県グラジオラス球根協会からは、球根の生産状況について、生産者の高齢化に伴い生産量を維持することが難しくなっていること、県オリジナル品種は昨年並みの生産であることが報告されました。
- その他、県産地振興課及び県南農林事務所経営・普及部門からは、10月に本県での開催が予定されている全国グラジオラス交流会（いばらきの花振興協議会の事業）等についての情報提供がありました。

今回の現地検討会では、国内唯一のグラジオラス育種機関として大いに期待されているとともに、県オリジナル品種のバリエーション強化が求められていることを認識しました。また、生産者と関係機関が一体となった茨城グラジオラスの生産振興の機運を高めることもできました。

今後も生物工学研究所では、生産者並びに市場の期待に応えられる品種育成と普及を目指します。



圃場での育成中系統の評価